

## 令和6年度 第3回 人権教育研究部研修会

令和6年11月6日(水)みをつくし文化センター

### 1 研究副部長挨拶 浜松市立引佐北部小中学校 相曾一毅先生

### 2 顧問校長挨拶 浜松市立村櫛小学校 今田 徹校長先生

複数の外国につながるのある中学生が「私ってナニ人?」と尋ねた時、母は何と答えたか。答えは「地球人でええやんか。」だった。今日の講話が、相手の思いを感じるきっかけになることを期待する。SNS を使った誹謗中傷、人権を無視した書き込みをする大人の姿から、人権教育の大切さを感じている。豊かな人権感覚を育ててもらいたい。

### 3 講話1「外国人児童生徒等の状況と支援事業について」

浜松市教育委員会 教育支援課 外国人支援グループ 主幹 澤田 直子 様

浜松市の外国籍児童生徒数は、今年度過去最高値を更新した。定住化が進み、77%が日本永住を希望している。一方、学習についていけない困難さを抱えている子も、7割以上いる。学習言語は日常会話と異なり、自然に習得できるものではない。

この数年間で、進路の幅が広がってきていることは喜ばしい。しかし、就学や学校生活にかかわることで、相談員への問い合わせは後を絶たない。外国人児童生徒がどうか日本社会に適応して、幸せに暮らしてほしい。



### 講話2「外国人相談員が、人権の視点から感じていること」

浜松市教育委員会 教育支援課 外国人支援グループ 外国人相談員

齋藤ナイル 様 中村グレイス 様

ブラジルでは高校までが義務教育であり、通いたい高校を選べる。そして、幼稚園から大学教育まで全て無償である。日本では、外国人生徒全員が高校に行く訳ではなくなってしまう。なぜ高校に行けないのか、なぜ私立しかないのか、と常識の違いに加えて日本語の曖昧さが原因でトラブルが生じる。対策案として、先生たちに知ってほしいことは以下の通りである。

- 外国人保護者とは、容易な短い日本語で話してほしい。
- 敬語は分かりにくいので、普通にゆっくり話してほしい。
- 説明は、具体的な例を挙げてほしい。



### 4 顧問校長挨拶 浜松市立大平台小学校 戸嶋 秀樹校長先生

齋藤ナイル様と一緒に勤務した時、ナイル様はいつも丁寧に話を聞いておられた。日本語でも外国語でも、目指すべきその姿勢は変わらない。学校側の工夫を心掛けていきたい。

### 5 参加体験型人権教育実践報告

- 浜松市立東部中学校 星川 愛 先生
- 浜松市立都田中学校 加藤 都海先生
- 浜松市立北浜南小学校 和田千恵子先生

以上